

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 95号

2014/06/02 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、 市況の動き：両市場とも週を通して上昇。一時2年9カ月ぶりの高値更新

① 最高：9月 LDN 市場£1,932 /7月 NY 市場\$3,071 (5/30) 先週比 **LDN +£29/NY +\$49**  
② 最低：9月 LDN 市場£1,906 /7月 NY 市場\$3,029 (5/27,28) 先週比 **LDN+£67/NY+\$99**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£26 (傾向↑) / NY 市場\$42 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 251,968 枚(5/23 終了時)⇒258,268 枚 (5/29 終了時) **+6300 枚**  
NY市場 211,582 枚(5/23 終了時) ⇒217,707 枚 (5/29 終了時) **+6125 枚**

【5月26日(月)】両市場とも休場

ニューヨーク市場はメモリアルデー、ロンドン市場はバンクホリデーのため休場。

【5月27日(火)】ニューヨーク、ロンドンとも8日続伸

ニューヨーク、ロンドンともココア先物は8営業日続伸。両市場とも、一時は2011年9月以来の高値を付けた。

チャートに基づく買いに押し上げられたが、2013～14年度の世界のカカオ豆供給量が10万トンを上回るとのレポートの発表を受け、その後は売りが優勢となった。

ニューヨーク市場の7月きりは、9ドル(0.3%)高の3031ドルで終了。一時は、3052ドルまで値を上げた。一方、9月きりも一時3060ドルの高値を付けた。ロンドン市場の9月きりは、10ポンド(0.5%)高の**1906ポンド**で引けた。一時は1916ポンドまで値を上げた。

【5月28日(水)】ニューヨーク9日ぶりに反落＝ロンドンは9日続伸

ニューヨーク市場は9営業日ぶりに反落。7月きりは2ドル(0.07%)安の**3029ドル**で終了した。このところの上昇に対する利益確定売りが出た。ロンドン市場は9日続伸。9月きりは5ポンド(0.3%)高の1911ポンドで引けた。

【5月29日（木）】ニューヨーク反発＝ロンドンは10日続伸

ココア先物は上昇。世界的にチョコレートの需要が高まる中、カカオ豆の主要産地である西アフリカで、エルニーニョ現象が作柄に悪影響を及ぼす恐れがあるとの見方が相場を押し上げた。

ニューヨーク市場の7月きりは反発し、17ドル（約0.6%）高の3046ドルで引けた。ロンドン市場は10営業日続伸。9月きりは10ポンド（約0.5%）高の1921ポンドで取引を終えた。

【5月30日（金）】両市場とも続伸＝2年9カ月ぶり高値

ロンドン、ニューヨークのココア先物相場は続伸。テクニカル要因が支援材料となったほか、2014～15年度の世界のカカオ豆市場が供給不足になるとの観測が広がり、ロンドンとニューヨークの両市場で約2年9カ月ぶりの高値を付けた。ニューヨーク市場の7月きりは25ドル（0.8%）高の3071ドルで終了。一時3082ドルの高値を付けた。ロンドン市場の9月きりは1934ポンドの高値を記録した後、11ポンド（0.6%）高の1932ポンドで引けた。

## 2、2013/14期の世界カカオ豆市場、7万5,000トンの供給不足＝見通し改善(5/31)

国際ココア機関（ICCO）は30日までに発表した四半期予想で、2013/14期のカカオ豆市場需給について、世界全体で7万5000トンの供給不足との見方を示した。供給不足は前回予想の11万5000トンから縮小した。ちなみに2012/13期は19万3000トンの供給不足であった。

ICCOは2013/14期の世界カカオ豆生産量見通しを416万トンとし、5万8000トン上方修正した。ICCOは理由を明らかにしなかったが、アナリストの間ではここ数週間、西アフリカのミッドクロップ生産量見通し改善を受け、世界の生産量見通しを上方修正する動きが出ている。ICCOはまた、2013/14期の世界カカオ豆圧砕量見通しを419万5000トンとし、1万7000トン上方修正した。

## 3、ガーナ：カカオ豆購入、8日時点で前年比16.32%増＝カカオ豆監督機関(5/28)

ガーナのカカオ豆監督機関、ココア委員会（Cocobod）が27日公表した統計によると、2013/14期の同国メインクロップ期（10～6月）におけるカカオ豆買い付け量は、年度開始の昨年10月18日から5月8日までの29週間で76万6620トンに達し、前年同期（65万9082トン）比16.32%増加した。ガーナはコートジボワールに次ぐ世界2位のカカオ豆生産国である。メインクロップ期に約85万トンの買い付けを期待している。

## 4、コートジボワール：大雨で西部カカオ豆産地などに被害(5/27)

コートジボワールのカカオ豆主産地の農家が26日語ったところによると、先週の大雨の影響で、同国西部イッシア、ガニョアなどの農園が被害を受けた。ただ大半の産地では、ミッドクロップ期（4～9月）の7月にかけて、堅調な生産量が見込まれるという。

26日公表された輸出業者の推計によると、シーズン初めから25日までの同国港湾のカカオ豆着荷量は約143万5000トンと、前年同期の121万6000トンを上回った。降雨がプラスとなった地域は、西部ソブレ、中部ディボ、南部アグボビル、沿岸部サンペドロなどである。

## 5、キャドバリー社：2種のチョコレートがハラール認証差し止めに(5/26)

マレーシア・イスラム推進委員会(Jakim)は、豚のDNAが検出されたキャドバリー社の2種類のチョコレートについて急遽、ハラール認証の一時差し止めを行った。

この2種類のチョコレートとは Dairy Milk ヘーゼルナッツ(製造ロット:200813M01HI2 賞味期限:2014/11/13)と Dairy Milk ローストアーモンド(製造ロット:221013N01RI1 賞味期限:2015/1/15)である。

Jakim の長官である Othman 氏は「豚の成分が検出されたという結果は厚生省により発行された文書に基づいている。これによると3つのサンプルのうち2つから豚のDNAが検出されたということだ。より詳しく徹底的に調査を行い、豚の成分が混入した実際の原因を調べる。」と加えた。

彼はまた「Jakimは製造された製品に対しては定期的にハラール認証に適応しているかの検査を行っていて、企業がハラール認証の基準を満たしていることを確認している。もしハラール認証の要件に対して違反があったり、基準を満たすには不十分であった場合は、Jakimは企業からハラール認証をすみやかに差し止める強制力を持っている。」と述べた。

1983年公布の食品法、1985年公布の食料規制法は食品や小売商品の偽造や健康被害から国民を守る目的を果たしている。担当者は「我々は国民に対して、キャドバリー社のチョコレートを購入する際や食べる前に、製品に貼ってあるラベルで製造番号を確認するように呼びかけている。もし質問等あれば消費者からのコメントを厚生省の食品安全・品質管理の部門になげかけることができる。」と述べた。

キャドバリー・マレーシアは豚成分が検出された製品を早急に回収した。そしてまた当該商品の他の全ての製品に関してはJakimによりハラール認証を受けている旨を保証した。

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp